

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	その人らしく暮らせるようにサービス提供の内容を考え、個人の尊重を理念に盛り込んでいる。		具体的に“地域の中で”などの理念の中にはないので、地域密着型サービスとして盛り込んでいく方向で検討したい。
2 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	月に一度のミーティングにて必ず理念に沿った内容の話をして実践に向け努力している。		噛み砕いた表現にして、職員ロッカー室に掲示している。
3 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	利用者さんが、地域へ出かける機会をつくり、地域の方々に理解が得られるようにしており、また、地域の人達がグループホームへ来てくれるよう取り組んでいる。		キャラバンメイト、近隣の小学校の運動会や学習発表会、ボランティアの受け入れ、町内会の餅つきやお祭りの参加、花火大会観覧、中学生の職場体験所行の受け入れなど
2. 地域との支えあい			
4 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	隣近所は、工場や畑であり、少し離れたところに学校や住宅街があり、町内会などの行事に参加した時には、必ず気軽に立ち寄ってくれるように話をするが、日常的な付き合いはできていない。		隣接しているグループホームや老健の利用者さんは、気軽に立ち寄っている。
5 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町内会の催しや学校行事に参加している。運営推進会議にも町内の方や近隣の学校の先生に参加して頂き、		町内会のお祭りで出る子供神輿が敷地内を通過してくれるようになった。
6 事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	運営推進会議やキャラバンメイトの活動にて、そのような状況があれば、検討している。		キャラバンの活動中に、近隣の高齢者の方が大正琴を披露する場が欲しいとの話があり、GHにて演奏して頂いた。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価は、毎年実施して、結果をまとめ改善に努めている。近年外部評価は、実施していない。		外部評価について、事業所に毎年実施するように要望し行きたい。
8 運営推進介護を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	会議参加者より、意見を聞き、GHへ持ち帰り参加しなかった職員も含め検討している。事業者への報告が必要な場合にも報告し、サービス向上へ活かしている。		消防の職員さんに来て頂き、災害対策について話し合いをした際には、ご家族からも多数意見があり、家具の設置方法など改善に努めた。また、高齢者でも立ち寄り易い場所などを家族や市職員より教えて頂き、地図なども提供してもらい、地域内での外出の機会を増やすきっかけとなった。
9 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	市担当者は、どんな相談にも親身になり対応してくれ、サービスの向上に繋がっていると思う。		情報の開示をつねにされており、それらについて不明な点は、気軽に聞くことができおり、誠実に答えて頂いている。
10 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	以前、講習を受講したことがある。運営推進会でも、このことについて議論し、地域包括センターの職員よりアドバイスを頂いた。		現在入居されている方々には、一度、会報にてご紹介し、運営推進会議終了後にもお知らせしているが、必要な方には、直接ご連絡し、今後、入居契約時にご家族にお知らせしていきたい。
11 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない注意を払い、防止に努めている。	講習に参加し、その職員は、内容を他の職員へ伝える機会を設けている。また、行政より、情報提供などがあつた際には、全職員に周知するよう努め、ミーティングでも、その内容について見過ごされていないか検討している。		文面の解釈に誤差が生じているよに感じられることが多くなっているように思われるので、統一を図るよう対処したい。
4. 理念を実践するための体制			
12 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約の際には、注意を払い説明しており、その場で契約を結ぶことは避け、内容の記載したものを持ち帰って頂き、疑問点などあれば、随時、電話でも返答することを伝え、再度確認してもらうようにしている。		解約する際にも十分な期間話し合いをもち、避けられるものは本人や家族とともに努力している。解約になった場合も、相談を受け付け不安にならないよう努めている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者さんが、職員へ直接言いづらいこともあると思うので、家族からも聞いてもらうようにしている。また、それらの意見は、必ず上司へ連絡し、すぐに反映できるものはして頂いている。		多くを反映してくれるが、以前に比べ、時間を要するようになってきている。積極的に働きかけ、短期間で反映できるようにしていきたい。
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	年に数回、会報を発行している。年に一度は、個別の内容にしていることもある。ケアプラン更新時には、プランに合わせ生活状況などもお話ししており、来訪時にも話をするように努めている。		会報の発行が減ってきているので、気をつけて行きたい。
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族の意見などもケース記録に記入して、更にミーティングでも取り上げるように努めている。家族への運営推進会への参加を促している。		契約書に苦情処理のシステムを掲載しており、入居時には必ず説明している。また、国保連からポスターなど郵送されてきたときは、家族の目の届くところに掲示している。
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ミーティングでは、もちろんこと、それ以外でも職員の意見や提案は、上司へ報告して反映できるよう努めている。		利用者の意見反映と同様になっているため、積極的に働きかけて行きたい。
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	時々や状況に応じ、どの時間帯に職員の層を厚くしなければならないのか、どのように対応すればよいのか、検討し柔軟に調整している。		早番の人数を増やし、時間を変えたり、昨年には、遅番を3人に増やした。
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	異動や離職は、最小限になっていると思う。交代の際は、短期間重複して勤務するなど、配慮している。		退職願いは、原則退職希望日の1ヶ月前に提出するようになっており、新職の人と重複できており、退職の際にも入居者さんへの負担は、最小限に抑えられていると思う。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>事業計画に勉強会を組み込んでおり、他の研修にも積極的に参加している。</p>	<p>今年度は、1ヶ月から2ヶ月に一度の割合で勉強会を実施している。うち4回は、同一法人のGHが企画し開催しているため、不足している部分の勉強会など開催されている。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>北海道GH協会にて、地域によりブロック化されて、それぞれ交流会や勉強会をするように促されているが、実施は困難となっている。</p>	<p>2月中に同市内のGHとボーリング大会をする予定である。</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>休憩が十分に取れるようにパテーションを用いて工夫している。ストレス解消については、それぞれの方法があるので、把握するように努め、軽減できるようにしている。</p>	<p>精神科医や心理士にストレス等について講演していただき、解消法の役にたつよう提供している。</p>
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>努力や実績、勤務状況を、運営者は、各職員と直接話したり、実際に見て把握するように努力されており、良いところを話してくれたり、アドバイスをくれたりしている。</p>	<p>大幅な昇給はないが、事業所側も向上心を確保する一つとして、昇給や賞与の支給に努めてくれている。</p>
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>話を聞く時間を設けるよう心掛け、内容については真摯に受け止めている。他の職員とも情報を共有できるように、話し合いをして、全職員で不安の解消に努めるようにしている。</p>	<p>本人以外にも、家族、ケアマネや入居前にサービスを利用されていた場合は、その担当者などからも話を聞き、不安の解消に努め、慣れた生活が継続できるようしている。</p>
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>相談時には、時間の許す限り話を聞き、その後、利用に至るまで、直接又は、電話にていつでも話を聞く時間を設けている。</p>	<p>来訪時には、必ず本人の生活状況を伝え、また、家族からも面会したときの状態や本人の訴えなど聞いている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談を受けたときには、その方の状況把握に努め、活用できるサービスも含めて検討している。		場合によっては、隣の診療所の医師や看護師、隣接老健の相談員や理学療法士、栄養士などの意見も聞き、参考にしている。
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居前に本人に見学して頂いたり、ショートスティ利用後に入居するなど工夫を凝らしている。		入居前に“お試し入居”のシステムを作るなど、検討してみたい
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	職員は、入居者優位を念頭に置き、共生し信頼関係を築いている。また、料理や、裁縫などわからないことを入居者さんより教えて頂き行ったり、手伝ってもらったりしている。		入居者さんは、若い職員や新しい職員を気に掛け、いろいろ世話をしてくれる。
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	家族には、プラン作成に関し、相談しており、行事を行う際には、お知らせして一緒に楽しめるようにしている。不穏時には、家族も一緒にケアをして頂くこともある。		電話にて、協力して頂くときには、事前に連絡を取り、本人の状況や返答の内容を統一し入居者さんの精神安定を図っている。
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	入居時に、聞き取りにて、家族と本人の関係が理解できるよう努めており、連絡の取り方、今後の家族と本人の関わり、職員の役割など話をしている。家族来訪時には、一緒に過ごせるように配慮している。		外泊について悩まれているご家族には、都度その時の本人の状況やご家族の考え、状況を踏まえ検討し外泊できるようにしている。
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	入居者が在宅時より、通院していた病院をそのまま利用したり、荷物や手紙が届いたとき等、電話やお手紙を書いて連絡をするようにしている。		毎年、クリスマスカードを作成して入居者さんに一言添えて頂き、ご家族へ送付している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	入居者間同士の言葉や表情などにより、一人ひとりが孤立せずに声掛けしたり、見守ったりと日々努めている。		入居者さん同士の関係を把握し、状況によっては、食堂の席を換えたりしている。
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退居後にも、相談があった場合は受け付け、出来る限り解決へ向けて協力している。近くにいる方には、年に一度は様子を伺うようにしている。		退居された入居者さんの家族から相談を受けて、入居された方もいる。
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人が発した言葉や表情、家族の要望を記録し、状態の変化を見逃さず、入居者一人ひとりの状態を把握するように努めている。検討時には、本人本位を念頭に置き話し合いをするように努めている。		入居時に、本人(可能な方)、家族の意向を聞いており、ケアプランの説明時や状態の変化に応じ、その時の意向を聞いて、添えるよう本人本位にて検討している。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時に家族より聴き取り、または個人調査票にて生活歴やライフスタイルなどに記入して頂き、職員は必ず熟読するよう努めており、声掛けや対応をしている。		必要な時には、利用していたサービスの事業所や担当者と連絡を取っている。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	日々のケース記録や申し送り、ミーティングなどで、具体的に入居者の変化を把握している。		記録の書式についても、把握し易くなるように検討し、変更している。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	家族来訪時には、意見などを伺い相談の場を設けているが、入居との話し合いは、出来る方とは積極的にしており、意思疎通が困難な方は、以前の生活歴や現在の行動などから、家族と検討し介護計画に反映するように努めている。		センター方式を活用している

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	それぞれ期間に応じて見直しを行っており、状態の変化が著しいときには、期間前に変更している。		
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに生かしている。	ケース記録にて、日々の変化や生活状態を把握し、ケアプラン作成に活かしているが、ケアの実践・結果、気づきや工夫の記入は不十分に思う。		声掛けなどで、混乱してしまう、入居者がおり、ケース記録に、どのように対応したかを記入して対応の仕方の統一を図り、混乱の軽減に努めたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	診療所や老健の職員、栄養士などからアドバイスを受け、支援をしている。診療所に関しては、往診にて入居者の把握をしてくれており、時々に応じ適切に処理または支持をくれる。老健のOTやPT、栄養士も相談に乗ってくれる。運動会やお祭りなど老健と合同で行っている。		以前は、頻繁に老健の催しを見学に行っていたが、年々回数が減っている。また、積極的に参加するようにしていきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	ボランティアによる民謡や踊り、体操など利用している。消防については、避難訓練などにてホーム内への出入りがあり、関わりがあるが、警察は、近くの派出所にも常時人がいるわけではなく、関わりを持っていない。文化・教育機関などとは催しがあれば、知らせてくれるなど協力してくれている。		ボランティアの活用を増やしたい。
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話す機会はあるが、介護保険以外のサービスは少なく、介護保険サービスを全額自己負担で利用するのは、利用者の負担が大きすぎ、他のサービスの利用は、殆どしていない。		警察との協力方法を考えていきたい。
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	地域包括センターの職員は、運営推進会議に参加してくれ、権利擁護についてお互いに役割を、それぞれ果たしていると思う。		家族から相談を受けた時には、包括センターからアドバイスを頂いたり、直接相談を受けて頂いたりしている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43	かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	かかりつけ医の受診のほか、診療所より医師の往診も行い、相談支援されている。必要時には、家族などの希望を踏まえて、相応の医療機関に受診している。		看護師が週に2回、医師が週に1回訪問している。
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	定期的な受診のほか、状況に合わせて受診し、診断、服薬などの治療を受けている。		訪問してくれている医師も認知症について理解を示してきており、今後更により良い治療が受けられる可能性がある。
45	看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	週2回の訪問看護を行っており、入居者の体調により、診療所への相談、受診し健康管理に努めている。		状況把握し、早急に対応するため、職員の判断も重要となる。知識向上と共に職員間での伝達連携がより必要とされる。
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	経過、治療内容など確認し、早期退院のため協力されている。		入居者さんが入院された場合は、出来る限り毎日面会へ行き、本人と話をするなどの時間を設け、状態を確認して、看護師や医師にも治療や状態、今後の方向性など伺うようにしている。
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	入居のときに、家族の意向を確認している。状態に応じ都度話し合いを設け、家族の意向を聞いている。かかりつけ医の意見も聞き、家族に伝え、また、家族の意見をかかりつけ医に伝え方向性を決めるなどしている。可能な時は、時間を合わせ皆で話し合いをするようにしている。		職員を通して双方に意見を伝えていることの方が、多いように思う。今後、皆が集まり直接話しができる機会を増やして行きたい。
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	できること・できないことの見極めは、行なっているおり、重度化や終末期に近づいている入居者家族には、かかりつけ医も交え、変化後の方向性について話をしている。		できる事、出来ないことシート自体も見直しを行い、確認するよう努めている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49 住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	入居、退居時ともに家族やケア担当者と密に連絡を取り合い、本人が混乱しないように対応を行なっている。		次の移り住む場所へは、事細かに情報を提供しており、移り住んだ後も、電話や面会などにて連絡を取り、本人の状態が落ち着くように努めている。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
50 プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	一人ひとりの性格や行動を把握し、それぞれに合わせた対応を行なっている。ケース記録など本人以外の方の名前は記入しない。		本人の誇りとしていることを大切にしている。
51 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	食事やトイレなど、本人の意思を大切に、行動を無理強いすることのないような支援を行なっている。本人の能力に応じ、最大限に引き出せ、決定できるように、一人ひとり力に合わせ支援させて頂いている。		会話が殆ど出来ない方に対しても、表情や体調に合わせた対応を心掛けている。
52 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	個人のペースに出来る限り職員があわせるよう支援している。		職員側の都合を入居者に感じさせないよう、ゆとりのある時間の中で生活して頂く。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、利用・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	家族と一緒に行きつけの美容室へ行かれている方が数名いる。その他の入居者も定期的にカット、パーマを利用できるように支援している。		衣類は、常に清潔なものを身につけて頂くと共に、個性に合った身だしなみが整うよう支援している。
54 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしているか。	苦手なメニューがある場合など、個人に合わせて別メニューで対応している。刻みやミキサー食など個人の能力に応じた形態で提供している。食後の片付けは、一緒に行なっている。調理も火にかける前の食材の皮むきなどして頂いている。		食事の仕度を手伝っていただくことがある。参加できる機会を増やして行きたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	タバコに関しては、ライターやタバコは、事務所にて管理しているも、本人の訴え時やある程度時間を決め喫煙している。手作りのおやつ等、作る前に何を食べたいかなど聞いている。		水分補給時、お茶を好まない方には、本人の嗜好を考え提供している。
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	個々の排泄パターンに合わせて、トイレ誘導を行っており、おむつの使用を減らすことは常に念頭において検討をしている。夜間トイレに間に合わない入居者の方に関しては、ポータブルトイレを活用している。		夜間、紙オムツを使用する方も、日中は排泄パターンを把握することで、トイレ誘導を行い、紙オムツからの離脱へと繋げている。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	週2回の入浴日は、決められているも、毎月第1・3・5日曜日には、午後から希望者に関して入浴を行なっている。		シャワー浴としている方が数名入居されており、特浴を実施できればと考える。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	前夜勤で、浅眠、不眠傾向にある入居者に関して、その時の状況に合わせ、数分～数時間ベッド臥床を促し休息を支援している。		食事時間は、皆で一緒に食べて頂ける様に、ある程度時間は、決まっているものの、その日の状況に合わせ休息や安眠を優先して頂いている。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	春夏にかけては、畑仕事や散歩など楽しみにしている方と、共に行なわれている。茶碗拭きやモップがけなど、本人の役割と思われているため、ほぼ毎日行なっている。		個々に合わせ、個人レクリエーションの様に、外出する機会を増やしたいと思う。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	家族からお小遣いを預かり、事務所管理されている方が、殆どであるが、数名は自己管理されている方もおり、買い物時やホーム前での自動販売機でジュースを購入されたり、月1回のお菓子販売での購入など、出来る限り環境作りをしている。		本人が買い物へ行くことを望まない方に関しては、希望に応じて職員が代わりに購入している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	希望通りにならない時もあるが、希望に沿うよう支援している。		敷地内を一人で散歩できる入居者さんには、自由にして頂いているが、その能力がある方でも、遠慮している方がいるので、力が発揮できるよう支援したい。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが言ってみない普段はいけないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	花見や夏祭り、花火大会や盆踊り、さくらんぼ狩りなど毎年実施している他に、文化センターで好みの催しの開催があれば、参加できるようにしている。		入居者より、観てみたい、行ってみたい希望があっても、入場料が発生する場合は、我慢して頂くこともある。
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	電話の希望があれば、かけて頂いており、荷物や手紙が届いた際には、電話または手紙を出すように支援している。		毎年、クリスマスカードを、自分で作成できる方にはして頂き、出来ない方は、職員と一緒に作成して送っている。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	日中は、施錠してはなく、気軽に訪問できるようになっている。面会時間も特に設けていなく、仕事帰りにでも気軽に訪問できるようにしている。訪問した時には、居室と一緒に過ぎて頂く等、工夫している。		家族の宿泊もでき、遠方から来られた方が泊まって行かれる入居者さんもいる。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束マニュアルは、作成しているが、全職員が正しく理解しているかは、不明である。夜間のベッド柵については、家族から希望があり、片側が壁、もう片方に2本柵をしている入居者さんが居る。		状態の変化に応じて、ベッド柵は家族と検討している。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中施錠していない。		施錠により弊害について、全職員が理解しているか不明である。それらを理解してケアに取り組むようにしていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	プライバシーに十分配慮しながら、居間には、職員が居ないことがない様に、必ず配置し見守りをし一緒に行っている。夜間は3時間ごと又は必要に応じて安否確認して、安全に配慮している。		夜間の安否確認が睡眠の妨げになる入居者さんには、モニターでの確認など工夫をしている。
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	転倒、事故に繋がる危険物は、どうすると危険ではなくなるのか検討して、一人ひとりの状態に応じて、排除する前に見守りの強化配置換えなどで対応し、事故防止に努め、物品の保管、管理をしている。		洗剤などは、事務所内や高い位置の棚に置き、事故防止に努めている。
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	定期的に救命講習や火災訓練、勉強会を開催しており、その時々状態に応じ、内容を変更している。利用者さんの変化に応じ事故の可能性を考えミーティングなどで話をするように努めている。		前回の勉強会では、リスクマネジメントについて職員で検討した。これを機会に職員間での意識が高まっており、更に掘り下げて勉強会などに取り組んで行きたい。
70 急変や自己発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	利用者の急変や自己発生時を想定した上で、定期的に救命講習や避難訓練、勉強会を実施して知識を得るようにしている。		避難訓練に関しては、消火訓練のほかに煙体験も行い、実際に恐怖感を体験している。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	定期的な避難訓練を実施しており、入居者さんにも参加して頂き、消防の職員よりアドバイスを受け、職員間でも話し合いを持っている。隣の老人保健施設とは、連携が出来ており、近くの住人にも協力が得られるように体制を整えている。		隣接の老人保健施設との連携は、会議などで話し合いを随時設けているが、実際の合同での避難訓練を実施したことがないため、検討してみたい。
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	2～3ヶ月に一度運営推進会議やケアプランの変更時に、一人ひとりの状態に応じて、家族と話をして、本人にとって良い状態の暮らしを考えている。		寝具について、使い慣れたものを使用しているが、状態に応じ、介護用ベッドへ変更して頂いた方が数名いる。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>	<p>職員同士で確認して記録に残している。診療所、他の医療機関への受診を行っている。週に2度看護師の訪問、週に1度医師の訪問があり、都度相談できており、また、採血など定期的に行われており、気になる点があるときは、病院の方から連絡をくれ指示を受けている。その際には、必ず申し送り情報を共有できるように努めている。</p>	<p>今後も医師や看護師に状態報告をして、指示があれば早期に受診していきたい。</p>
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>職員が薬の管理・投薬を行っている。副作用・用法・用量については、全員が理解できていない。</p>	<p>ケース記録にファイルされているお薬表を確認して、副作用・用法などを一人ひとり覚え、症状の変化を確認する。</p>
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。</p>	<p>週2回の体操の実施や掃除などの手伝いの参加で体を動かしたり、毎朝の牛乳提供や水分摂取の促し、調理の工夫(形状等)行っている。</p>	<p>便秘が続く場合は、必要に応じ下剤にてコントロールを行っている。</p>
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>	<p>介助が必要な人には、行っているが、自立している人は行っていない人もいる。</p>	<p>行っていない人にも口腔ケアを促し、口腔内の状態を確認していきたい。</p>
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>カロリー計算はしていないが、バランスを考えた食事を提供、水分の記録をしている。</p>	<p>定時の水分補給の他に、必要に応じて水分補給を促している。お茶も熱・冷など好みを取り入れ、嚥下の状態に応じて、食形態を変え、トロミ剤の使用もしている。</p>
78	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>感染予防マニュアルを作成している。予防接種や消毒剤を使用して手摺等掃除をしている。外出後には、うがい、手洗いを実行している。</p>	<p>保健所より講師を派遣していただき、講習を行ったが、更に疥癬・肝炎・MRSAにも対応できるように知識を学びたい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	調理前の手洗いに始まり、新鮮な食材を使用して、十分な加熱調理を行っている。布巾も毎日消毒を行い、衛生管理に努めている。		保健所などからの情報を得て、ウイルス感染には、十分注意して食材選びを行っている。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	玄関前に花壇を造り、見た目も心地よい空間となるように努めている。外には、スロープがあるが、玄関ホールには、ないので取り付けを検討してはどうか		災害時、非常口となる場所には、スロープを取り付ける工夫をしていきたい。
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用にとって不快な音や光がないように配慮し、生活観や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	空間においては、開設時当初より、気を配っている。音については、テレビの音量など配慮している。お雛様、五月人形、クリスマスツリーなど四季折々の空間になるようしている。		居間には、畳を設置して、横になったり、足を伸ばしてくつろげる場所を作っている。居間には、暖炉もあり、寒さの感じられるときには、火をつけて、目からも温かさを感じている。
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	居間や食堂席など、気の合う入居者さん同士が、くつろぐ様子は、日々の生活の中にある他、廊下の奥にソファを設置しており、一人になれる場所作りも行っている。		家具の配置などによって、顔を合わせたくない方とは、合わせなくても済むよう工夫しており、状況に応じて職員が誘導を行い雰囲気壊さないようにしている。
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	殆どの入居者さんが、持込の家具等を使用されており、家族が季節に合わせた壁掛けを設置している居室もある。		誕生日のプレゼントに、本人の好みのものをプレゼントして、心地よく過ごせるように工夫している。居室内には、火気発生の恐れのあるもの以外制限はしていない。
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	室内温度は、年間を通し高めであるため、活動する入居者さんにとっては、暑いと感じられるときも少なくない。体感温度には、個人差があり、風を嫌う方もいるので、全体のバランスを見る必要がある。		冬場は、外出も減り、窓を閉め切ることが多いが、日に一度は、換気をして外気に触れ、季節の匂いを感じて頂きたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>廊下、トイレや浴室内に手擦りを設置している。また、家具の位置なども自立を促せるように工夫している。</p>	<p>夜間、トイレに間に合わない不安をかかえている入居者の居室にポータブルトイレを設置するなど、工夫している。</p>
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>トイレや居室がわかるように掲示しており、浴室には、女湯・男湯の掲示をしている。自分で掃除や洗濯の出来る入居者さんには、GHの用具も取り易い場所に置き、一人で出来るようにしている。</p>	<p>入居者の能力に応じて、表示するもの位置や大きさを変えている。</p>
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>GHの目の前に花壇や畑があり、ホーム内からも見えて、楽しめるようになっており、気軽に活動できるようになっている。散歩の楽しめる時期には、ベンチを設置して、休憩場所など確保している。</p>	<p>花壇や畑作り、雑草取りなど入居者が中心となって行なえるようにしている。玄関から出たところに、洗濯物干しを置き、入居者さんも利用できている。</p>

サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる <input type="radio"/> ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある <input type="radio"/> 毎日ある <input type="radio"/> 数日に1回程度ある <input type="radio"/> たまにある <input type="radio"/> ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている <input type="radio"/> ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている <input type="radio"/> ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている <input type="radio"/> ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている <input type="radio"/> ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている <input type="radio"/> ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています <input type="radio"/> ほぼ全ての家族 <input type="radio"/> 家族の2/3くらい <input type="radio"/> 家族の1/3くらい <input type="radio"/> ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている <input type="radio"/> ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 数日に1回程度 <input type="radio"/> たまに <input type="radio"/> ほとんどない

サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p><input type="radio"/> 大いに増えている <input type="radio"/> 少しずつ増えている <input type="radio"/> あまり増えていない <input type="radio"/> 全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働けている</p> <p><input type="radio"/> ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p><input type="radio"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p><input type="radio"/> ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

寝たきりにならない生活が少しでも長く続くように支援させて頂いている。些細な出来ることでも見つけそ、その能力を活かせるように生活していただくことを目標としている。